

令和３年度第１回長浜市みどりの基本計画改定委員会 概要

日 時	令和３年８月６日（金）１４：００～１６：００
場 所	長浜市役所本庁舎１階 多目的ルーム１
出席者	出席：村上委員長、川瀬副委員長、高木委員、高橋委員、二宮委員、福井委員 森川委員、安野委員（以上８人） 欠席：石谷委員、野村委員（以上２人） 傍聴者：なし 事務局：都市計画課 井口課長、陌間係長、蒲生主幹、山階主査

■概要

1 開会

伊藤次長よりあいさつ（内容省略）
～伊藤次長退席～

2 委員自己紹介

3 会議の成立について

過半数の出席により会議が成立していることを事務局より報告。

4 正副委員長の選出について

互選により委員長に村上委員、副委員長に川瀬委員を選出。

5 会議の公開について

原則通り会議及び会議録は公開することとなった。
傍聴希望者がいないことを確認。

6 みどりの基本計画改定案について

【委員長】

では次に次第の４の（２）「みどりの基本計画の改定について」、事務局から説明願う。

【事務局】

～資料４について説明（内容省略）～

【委員長】

改定するにあたっての背景や主な方向性について説明があったが、意見や質問等あるか。
～特になし～
では次第４の（３）「序章から第２章の改定案について」に移ることとする。

【事務局】

～資料５について説明（内容省略）～

【委員長】

序章から第２章までの改定案を説明があった。ボリュームがあるため、持ち帰り後、気づいた点や不明点等、後日でも事務局までご連絡いただきたいと思うが、せっかく皆様にお集まりいただいているので、順番に一人ずつ、改定に寄せる思いも含めて、また今の段

階で気づいた点等あればお伺いしたいと思うが、いかがか。

【委員】

計画の構成が非常に範囲が幅広く、わかりにくいように思う。住む場所によって「みどり」が意味するものが異なり、市民の意見も変わってくるのでまとめるのが難しいように思う。目指す方向性は事務局案で間違いないと思う。市街地への力入れを感じるが、里山を活かすことができないものか。

【委員長】

市街地から里山、山林、湖岸と様々。従来の計画構成を踏襲するだけでは不十分となるかも。各方針からそれぞれ施策に落とし込むのではなく、エリア毎に落とし込んでいく必要があるかもしれない。また検討いただきたい。

【委員】

当団体では山道を「つなぐ」活動をしている。「自然・歴史・文化・人が結ぶ万緑の回廊」の「回廊」という言葉が非常に気に入った。ただ実現するには一つの部署ではなく、行政として各課連携して取り組んでいかなければならない。

【委員長】

どのように実現していくか、庁内の体制、農・林・水産等横断的な推進が必要。

【委員】

市街地に重点を置くのか、市全体なのかというところもある。市街地面積に対する緑地の面積割合の令和13年度目標値が8%とあるが、果たして10年後8%を維持できるのか心配するところである。仕事上、宅地開発の情報がよく入ってくる。農地が減少していく中で、8%の維持をどのように実現していくのか。

【委員長】

次回以降の委員会で、どのような施策を打ち立てるか示されると思う。
都市計画区域は規制もあるので、ある程度補償されるかと思うが、農地や地域のシンボルとなる樹をどのように守っていくかが問題。

【委員】

公園のことから地球温暖化まで幅広いので、どのように組み立てていくか。
市街地と農村、あるいは放置されている森林をどう保護するか。
緑化活動の参加者や、みどりに関心をもつ人の割合をどう増やしていくか。
広域な面積をもつ長浜市で、どのように公園を管理し、子どもがみどりに関心を持つ場をつくっていくか、考えていく必要がある。

【委員長】

だれがどのように管理していくのか、具体的な施策を次回以降示してほしい。

【委員】

市民アンケートで「保全に力を入れるべき」とあるが、自分もそれを感じている。
大木が台風被害等あった場合、大枝を切してほしいという依頼が一般の方からよく入るが、安易に枝を伐採すると傷がついていずれ倒木してしまう。
災害が起こった際の避難場所として公園がいくつか指定されていると思うが、樹木の管理がしっかりされていないと危険な場所になってしまう。保全するには切り方が大切。本計

画で市民のかたにわかりやすく伝わるようにそのあたりのことも記載してほしい。

【委員長】

単に「維持管理」という言葉だけでなく、どのように維持管理するか技術的な側面、それが市民にもわかるように、踏み込んで記載できると良い。

【委員】

仕事柄、自然の緑より、どちらかといえば街路樹や公園に興味がある。長浜平方町やビワイチのコース関係、米原駅舎前等、依頼を受けて街路樹を植えたこともあったが、現在はぱったり切られてしまっている。県の事業だとは思いますが、みどりを守っていくなかで、県と市の調整はどうなっているのか。木を切って自転車道を確保するだけでなく、休憩所として緑地をつくるとか、湖岸道路に関しても、市としてもっと県に意見を出されたらどうか。

公園や街路樹、県道も含め、維持管理があまり良くないということで、土木事務所から協会へ相談されたこともあった。せっかく作られた緑地をいかに維持していくかという部分で、我々の団体の協会員が長浜市にほとんどいないため指導ができず歯がゆい思いをしている。

【委員長】

前回の策定の際にはあまりなかった観点。景観に配慮し、適切に面倒を見るということだと思う。単なる市民参加ではなく、専門技術的なことにスポットライトを当てた書き方を考えてほしい。

【委員】

当団体もみどりの活動として、公共施設に桜を寄付したりしているが、寄付したあと雑草だらけになっていることがある。寄付したあとの管理も考えてほしいと思う。

また昔は公園に子どもたちがたくさんいて、雑草が生えることはほとんどなかったが、今は子どもたちがあまり公園を利用しないので、草がたくさん生えていて草むしりが大変。公園を管理されている自治会も大変だと思う。

【委員長】

先ほどアンケート結果のなかで遊び場が求められているという話から、改定案のなかで遊び場を整備するという話があったと思うが、実感としては子どもは逆に公園で遊ばなくなっているように感じる。ここでいう整備とは遊びをテーマとした公園を整備するという意味なのか

【事務局】

公園のなかには遊具が整備されていない公園もあるので、そのあたりを今後整備していくつもりである。

【委員長】

自治会によっては子どもが少なくなって、子どもの遊び場のニーズが少ないところもあるので、委員のご指摘も踏まえて、改定案への書きぶりは検討いただきたい。

【委員長】

私からの意見であるが、社会状況の変化を盛り込むのであれば、公園マネジメントと生物多様性の視点が重要。生物多様性については、滋賀県でも計画を策定されていて、湖と山のつながりの視点でエリアごとに具体的な内容があるので、本計画にも反映していただ

きたい。

序章に防災についての視点があり、洪水防止機能の言及があるが、地震についても盛り込んでもらいたい。熊本地震の際には公園自体が避難場所として機能したり、物資の集積所として機能した。国交省の防災公園ガイドラインも参考にしながら、大震災の際の避難場所としての役割も記載を検討してほしい。

また、市民アンケートの中で、みどりづくりのための資金援助が欲しいという内容があるが、民間から資金を呼び込む手法が普及しつつある。先進事例として長野県で実施されているグリーンボンドがある。私有地や民地の緑化に税金を投入することに対する点からも、民間資金は有効であるため、このあたりの視点も加えてもらえればと思う。

【事務局】

次回お示しする具体的施策の中で検討していきたい。

【委員】

この計画を作ったあと、どのように活かされるのかよくわからないのでさっきは漠然とした意見しかでなかった。都市計画課として公園の整備などをしていくために使われるのか、あるいは森の保全に使われるのか、または例えば図書館などにちょっとした子どもの遊び場を作るとか、そういったものに使われるのか。何をどう実現するか、どのように活用されるか教えてほしい。

【事務局】

図書館など公共施設のみどりも、本計画で対象としている。

基本的にこのみどりの基本計画は、アクションプランのように細かい行動計画を示しているものではなく、方針や方向性を示したうえで、森の保全については森づくり計画、公園については公園整備計画等、それぞれの課と連携しながらどうしていくか考えていくものである。よって総枠の話もあれば個別の話もあるということを、改定するうえでご理解いただきたいと思う。

【委員長】

補足で質問だが、今回も前回同様、緑化重点地区あるいは緑化保全重点地区はあるのか。

【事務局】

具体的施策のなかで、エリア別の重点施策も盛り込んでいきたい。

【委員長】

前回計画と同じエリアが継承されるということか。

【事務局】

継承されるものもあるが、終了しているものについては見直しを行う。

【委員長】

アクションプランはどうなるのか。

【事務局】

今回の改定ではアクションプランとしてはとりまとめず、計画のなかに盛り込むつもりでいる。なお、6-3「現状把握のためのみどりのデータベース化」については、今回の改定で引き続き記載するかどうかこれから検討する予定である。

【委員長】

アクションプランは誰がどのように、いつ行うかタイムラインを示したもの。作成が望ましいが、計画に盛り込むのなら、絵にかいた餅にならないようにしっかりと記載してほしい。

また、みどりの現状把握のための方法として、現況調査で国土数値情報が使われているが、これは全国を網羅するため調査結果がまとまるのに非常に時間がかかるものになっている。

みどりの基本計画の改定にあたっては、みどりの現況把握が一番重要。

タイムリーに現況把握し、手段としてドローンや航空写真の活用が考えられるが、ぜひ具体的なデータベース化の方法も含めて計画に記載してほしい。

7 今後のスケジュールについて

～資料6に基づき説明（内容省略）～

8 その他

特になし

9 閉会

※資料を持ち帰りいただき、追加の意見や質問事項等あれば 8 月 20 日までに事務局あてに連絡いただくようお願い。

（終了）